

69)

糖尿病患者の振動感覚低下に対する八味地黄丸薬効の定量的評価

国立京都病院 内分泌代謝疾患センター

○赤澤 好温, 大石まり子, 飯田 孝陽

〔目的〕糖尿病性神経障害は比較的初期より見られる合併症であるが、放置すると他の合併症の悪化の誘因となる。その早期徴候として振動覚の低下が認められるため、これを定量的に測定し薬剤による早期治療として既にメチルB₁₂が有効なことを報告したが、今回、漢方薬で糖尿病症状に有効であるとされている八味地黄丸を用いて同様にその効果を客観的に評価観察することを目的とした。

〔方法〕既にメチルB₁₂の定量的薬効評価に用いたと同様の方法を用いた。即ち市販の振動感覚計TM-31A (VSMと表示)及び我々の考案した振動定量計(VTと表示)、更にヨーロッパで使用されている半定量的音叉(TFと表示)を用い、VSMでは正常値は 8 ± 3 、数値が増加すると振動覚の低下を示し、VTは約10倍の数値で、同様にその増加は振動覚の低下を示す。逆にTFは0～8の数値で表現され、正常値は7～8で0に近づく程振動覚の低下を意味する。測定は足背部を用いた。

〔成績〕入院患者で血糖値に変動のないNIDDM, 男13例, 女11例 計24例(平均年齢61才, 罹病期間9.5年)を八味地黄丸投与群として1週間毎, 平均3.4週の観察で対照群(メチルB₁₂投与群26例及び非投薬群10例)と比較した。その結果八味地黄丸投与群では24例中23例に著効を示し, 有意の振動覚改善率は96%, 効果発現は既に投与後1週間で認められた。メチルB₁₂投与群では改善率は82.4%, 非投薬群では振動覚に有意の変動は見られなかった。

〔考察〕糖尿病性神経障害の定量的評価には従来神経伝導速度が用いられているが、高価な機器を必要とし、ベッドサイドの評価には適さない。我々は、その中で振動感覚の低下に対しては薬剤による改善効果を簡便かつ定量的に評価し得ることを確認したが、漢方薬八味地黄丸についても、その効果は著明であった。漢方薬は多成分系であるため、その中のどの成分が有効であるかを今後検討したい。

〔結論〕糖尿病患者の振動感覚を三種の機器を用いて定量的に測定し、その低下改善を目的に八味地黄丸を投与した。薬物非投与群に比し有意の改善効果を示し、既に有効な薬剤として知られるメチルB₁₂以上の効果を示した。